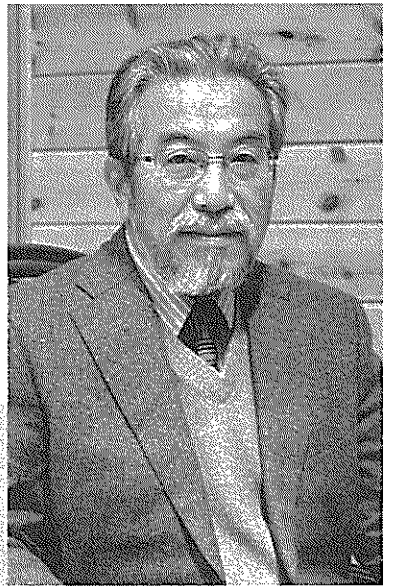


くらし彩々



「非行」と向き合う親たちの会
事務局長

春野すみれさん



滋賀県立大学特任教授
(臨床教育学)

福井雅英さん

川崎市で市立中学1年生の上村(うえむら)遼太君が殺害された事件から2カ月がたちました。今回の少年事件を人ごとではないと感じ、何かできないかと模索する人たちが広がっています。子どもの問題に長く向き合ってきた人たちはどう考えているのでしょうか。

本吉真希記者

地域のおとなができることは？

学校を情報共有のセンターに

事件の背景の一つに、関係機関が個別につかんだ情報が全体に共有されず、対応されなかった問題がありました。地域に援助のネットワークを張り巡らせる必要があり。子どもの成長・発達に責任を負っている学校は、その中心になれ

ます。いま学校には貧困や虐待など、さまざまな問題を抱えた子どもが多くいます。上村君のお母さんも母子家庭で、朝から晩まで働き「日中、何をしているのか十分に把握できていませんでした」とコメントしていました。

学校の主体になれるような援助が求められていると懸念しています。しかし新自由主義が持ち込まれ、社会全体が競争に慣らされてしまっていることに危機感を覚えます。そういうなかで、学校本来の社会的役割が見失われています。

そういう子どもに必要なのは教育的援助以上に、家庭も含めた福祉的援助だと思います。朝食を食べないとか、親とけんかしたとか、そういう相談の内容。親への不満を聞きながら、親と子の関係をつなぎ直す。その子自身が家での

学校が子どもを守る地域のセンターになるよう、教師や保護者、住民が協力し合うことが求められています。

川崎の事件は悲しくつらい、あつてはならない事件でした。多くの人が関心を持ったのは、特異な事件だというより、身近に起こり

うると感じたからではないでしょうか。実際、家や学校・地域に居場所のない子どもが事件を起こす状況は、どこにでも

あめあがりの会と非行克服支援センターが共同で、春の「非行」何でも相談(無料電話相談)を行います。わが子の「非行」に苦しみ、もがいてきた親たちと専門家が相談員を務めます。日程は5月1～3日の午後1～7時。電話03(5348)7699

親も子どもも不安 周囲が声かけを

あめあがりの会と非行克服支援センターが共同で、春の「非行」何でも相談(無料電話相談)を行います。わが子の「非行」に苦しみ、もがいてきた親たちと専門家が相談員を務めます。日程は5月1～3日の午後1～7時。電話03(5348)7699

立しないよう支えられる地域であってほしいし、揺れている子どもに対して、居場所を完全に失ってしまわないように、周囲のおとなが普通に声をかけてあげられるといいですね。ある非行少年が「理解者がいると暴れにく」と言いました。少年法「改正」で厳罰化を進める動きもありますが、子どもの非行を止めるのは、罰の力ではなく人の心だと強く思います。

もあると思います。

思春期は、体も心も大きく変化します。世界も広がっているような感じがしてきますが、社会経験は乏しく、希望と現実のギャップや自信のなさや不安などで揺れがちです。

非行や不登校などの行為は、学校や家庭、友達関係などいくつもの要素が重なって、耐えてきたものが耐えきれなくなってきた子どもがサイン。親のせいだと責められがちですが、単純なものではありません。

「非行」と向き合う親たちの会(あめあがりの会)に集う人たちの経験から言えるのは、そんなとき親が子どもを理解しようとする姿勢を持つことが、最悪のことから子どもを救うためにも大切なことだと思います。

でも、それは親の気持ち安定していないとできないこと。困っている親が孤